

平成31年2月定例市議会

# 施政方針

和歌山市



ただいま上程されました諸議案の審議をお願いするに当たり、私の市政に対する所信の一端と、平成31年度当初予算の大綱を申し述べ、市民の皆様、議員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと思います。

### (国の情勢)

我が国の経済は、緩やかな回復が続いており、2012年以降、生産年齢人口が451万人減少している中においても、女性や高齢者の就労促進により就業者数が251万人増加するなど、経済の好循環は着実に回りつつあります。また、2020年、訪日外国人旅行者数4,000万人という政府目標達成の兆しが、「平成」のその先の時代を明るく照らしています。

一方、地方創生をめぐる現状は、人口減少に歯止めがかかっておらず、東京一極集中の傾向も継続しています。また、将来の人口減少と高齢化は依然として深刻な状況です。そのため、本年10月からスタートする幼児教育・保育の無償化をはじめとする「人づくり革命」の推進やAI、IoT、ロボットなどの第4次産業革命がもたらす技術革新等を通じた「生産性革命」の実現に最優先で取り組

むとともに、生涯現役社会の実現に向けた全世代型社会保障制度への取組を進めるとしてしています。さらに、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の最終年でもある平成31年度は、地方創生の実現にとって極めて重要な1年となることから、これまでの地方創生の取組の成果や課題を調査・分析し、第1期総合戦略の総仕上げに取り組むとともに、Society 5.0の実現や持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組をはじめとする社会的変化を見据え、地方創生の新たな展開としての飛躍に向け、次期総合戦略策定の準備が開始されます。

地方創生の一層の推進に当たっては、経済、社会及び環境の統合的向上などの要素を最大限反映するとともに、災害時における重要インフラの機能維持に向けた国土強靱化等、安全・安心に関する取組との連携など、切れ目ない取組が進められています。また、平成29年度の国土交通白書によると、若い世代を中心に地方移住への関心が高まっていることから、東京圏から地方への人の流れの厚みを増すための支援も始まります。

昨年12月に政府から中枢中核都市に選ばれた本市は、こうした機会を捉え、活力ある地域社会を維持する都市として「人口流出の

抑止機能」に応えていく必要があります。

### (未来の発展に向けて)

平成31年度は、平成27年10月に策定した「和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の最終年となります。翌年の2020年度には、空き公共施設を活用した大学誘致や耐震性のない公共施設の再編といった、これまで取り組んできた拠点づくりが完了します。現在の取組を着実に進めることはもちろん、今後のまちづくりに向けた準備も進めていかなければなりません。総合戦略の検証や次期総合戦略に向けた検討に加え、先端技術の導入の検討を行い、大阪・関西万博が開催される2025年には、世界から注目される都市となれるよう、未来の発展に向けた取組を進めていきたいと考えています。

### (平成31年度予算)

未来の発展に向けては、特に、子育て環境や高齢者・障害者福祉の充実、災害対策の強化などに重点的に取り組み、すべての人が生涯にわたり安全・安心に、いきいきと暮らせるまちを実現し、それ

を将来にわたって持続するために必要となる活力として、産業を元気にし、まちを活性化させる取組を更に強化させてまいります。

平成31年度予算は、これまで進めてきた様々な取組により生まれ始めているまちの成長を確固たるものにするとともに、更なる成長に向けた取組を、時代の潮流に乗り遅れることなく進めていくことで、本市の発展を築いていきたいという強い思いから、「未来の発展につなげる予算」と位置付けて予算編成を行いました。

以下、平成31年度の主要事業について、昨年9月の所信で述べた4つのまちの将来像に沿ってご説明いたします。

#### ◆ 子供たちがいきいきと育つまち

1つ目は「子供たちがいきいきと育つまち」です。

「子育て環境日本一」を目指し、取組を強化します。現在実施しているこども医療費の無償化に加え、幼児教育・保育の無償化や就学援助の充実など、未来を担う可能性に満ちた子供たちへの投資を拡充させるとともに、発達障害や虐待など子育てに係る相談支援体制を充実させます。また、子供たちの確かな成長を支え、子供たちが未来に大きく羽ばたけるよう、教育環境を充実させるなど、「子

供を第一」にした取組を推進します。

### (未来へつなぐ子育て支援)

現在、市内13か所に設置されている地域子育て支援拠点施設では、遊びの広場の開放、子育てサークルの支援、子育て相談といった取組を通じて、親子の交流拠点としての機能を果たしています。和歌山市駅前再開発ビル内にオープンする新市民図書館には、子育て支援拠点施設に加えて、キッズスペースや屋上広場を設けることで、子供たち、親子、更には3世代で楽しめる新たなライフスタイルを提供することができます。

また、地域の皆様が主体となって運営されている子供食堂の輪が広がっています。地域の人々と子供たちの交流拠点となるよう、各コミュニティセンターにおける場所の提供やホームページ等を通じた広報などにより支援してまいります。

本町小学校跡地では、こども総合支援センターと（仮称）本町認定こども園の複合施設の建設に着手しており、2020年1月には、こども総合支援センターが移転できるよう進めています。移転に伴う施設の拡充と専門職員の増員により、子ども家庭総合支援拠点と

して、よりきめ細かな相談や支援が可能となり、子育てに関する不安解消に加えて、児童虐待の未然防止や早期発見につなげてまいります。

また、小学校入学に向け、私立保育所での5歳児相談を新たに追加し、発達相談体制の充実を図ります。

待機児童ゼロに向けては、引き続き、私立認定こども園等の整備を支援するとともに、2020年4月に公立で初の開園となる認定こども園の整備を進めます。（仮称）本町認定こども園では、「障害児への特別支援教育・特別保育」に注力するなど支援環境が充実した園を、（仮称）芦原認定こども園では、「一時預かり室」や「子育て支援室」を確保し、在園児以外にも広く活用できる地域に開かれた園を目指します。公立の認定こども園の整備により閉園となる保育所等は、子供から高齢者まで幅広く使える地域の交流拠点とするなど、活用方法の検討を行います。

また、若竹学級においても、待機児童ゼロを継続できるよう、利用者の増加に対応した教室の整備を行います。

### (未来をつかむ力を育む教育)

教育の機会均等を図り、子供の学びを支えるため、就学援助を充実させます。国基準を大きく下回っていた学用品費等の支給額を、現在の国基準にまで一気に引き上げるとともに、入学時期の負担軽減を図るため、小学校新1年生の新入学学用品費の支給を入学前に前倒しします。

また、核家族化や地域のつながりの希薄化などにより、家庭や地域の教育力の低下が見られ、子育てや教育について不安を持つ家庭が増えてきています。学校が保護者や地域住民とともに知恵を出し合い、連携・協力し、子供たちの成長を支える「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて、平成29年度から導入を進めてきたコミュニティ・スクールは、平成31年度ですべての市立学校への設置が完了します。導入3年目を迎える学校による実践発表を通じて、各校における具体的な取組につなげ、魅力ある学校と地域づくりを促進します。さらに、身近な地域で、保護者が家庭教育に関する学習や相談ができるよう、「家庭教育支援サポーター」を養成します。

平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果によると、本市の

中学校については、依然として全国平均より低い状況であることから、学び合いの授業づくりの研究を推進し、教員の実践的指導力を向上させるとともに、放課後の補充学習やICTを活用した分かりやすい授業展開により、学力の向上を図ります。また、すべての児童生徒が自分の体力に関心を持ち、運動習慣の定着を促進するため、引き続き「パワーアップチャレンジ手帳」を活用した健やかな体を育む教育を推進します。

近年の夏場の厳しい暑さは、学校における学習環境の悪化を招き、子供たちの学習面や健康面への影響が危惧される事態となっています。また、学校施設は、児童生徒の学習の場であると同時に、災害時には地域の避難所としての役割も担っていることから、普通教室に引き続き、特別教室や体育館への空調の設置を計画的に進めるとともに、耐震性と浄水機能を有するプールの整備を進め、健康的で快適な教育環境と防災機能の向上を図ります。

#### ◆ 誰もが暮らしやすいまち

2つ目は「誰もが暮らしやすいまち」です。

現在、「和歌山市が住みやすいまちだと感じる市民の割合」は8

0%以上となり、総合戦略の数値目標を上回っている状況にあります。人生100年時代を見据え、障害の有無にかかわらず、子供から現役世代、高齢者まで、すべての市民が安心して生活できる環境づくりを推進するとともに、様々な災害に強いまちづくりを進めるなど安全、安心、快適に暮らせる持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

#### (生涯にわたる健康福祉の充実)

本市では、「WAKAYAMAつれもて健康体操」など住民同士のつながりを中心とした健康づくりの普及啓発に取り組んできた結果、地域住民の健康づくりに対する意識が高まってきました。これを更に広げ、昨年末で約5,000人であった介護予防のために立ち上がった自主グループの活動者数を、団塊の世代が75歳を迎える2025年までに、2倍以上の11,000人とすることを目標として取り組みます。

今年11月には、「ねんりんピック紀の国わかやま2019」が開催され、本市でも4競技が実施されます。開催を通じ、高齢者を中心とする市民の健康増進と生きがいづくりの機運を高めるとも

に、その機運を「ワールドマスタースゲームズ2021関西」につなげるなど生涯スポーツの振興をなお一層推進してまいります。

昨今、地域のつながりの希薄化などにより、支え合いの機能が低下している一方、市民の抱える福祉ニーズは多様化、複雑化している状況にあります。こうした課題に対し、地域全体で支える力を再構築し、より幅広く地域課題の解決を図るため、平成30年度には、市内全15圏域へ生活支援コーディネーターの配置が完了しました。平成31年度は、市内42地区で、子育て・見守り・生活など地域での困りごとや課題に対し、ボランティアなどの住民主体の課題解決力の強化と包括的な相談支援体制を構築する「我が事・丸ごと」の地域づくりを推進することで、高齢者、障害者、子供など、地域の誰もがより安心して暮らせる社会を目指します。

障害を理由とする差別の解消を推進し、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害のある方が円滑に意思表示やコミュニケーションを行うことができるよう意思疎通支援の充実を図ります。さらに、障害者の働く場の確保や開拓などの就労支援、施設のバリアフリー化などの取組により、障害のある方の自立と社会参加を促

進します。また、すべての市民の人権が守られるよう、人権教育や啓発など総合的な人権施策を推進します。

生活に潤いと安らぎをもたらしてくれる動物の存在は、ともに暮らし、時に心を通い合わせる人生のパートナーとなっています。(仮称)動物愛護センターのオープンを契機に、更なる動物愛護思想の普及啓発と保護動物の譲渡により「犬・猫の殺処分ゼロ」に取り組むとともに、人と動物が共生できる社会の実現を目指します。

### (市民の命と暮らしを守る)

近年、モータリゼーションの進展は、日常生活における自動車の依存を高め、人口減少と相まって路線バス利用者は減少傾向にあり、減便や廃止となる路線が増えつつあります。路線バスの利用促進とキャッシュレス化による外国人観光客の市内移動の負担軽減を図るため、バス事業者の交通系ＩＣカードシステム導入を支援します。

加太地区デマンド型乗合タクシーについては、利用啓発により地域への定着を図りながら、利用者ニーズ等実情に応じた柔軟な運行方式も視野に、デマンド交通のメリットが最大限発揮できるよう、地域に根差したサービスの向上に努めます。さらに、路線が廃止と

なるなど、交通網が行き届いていない地域への新たな交通手段として、地域バス導入に向けた検討を進めるとともに、公共交通ネットワークの形成状況を踏まえた効果的なLRTなど新交通システムの導入可能性を研究します。

産業・生活・安全の基盤となる道路網に関しては、安全で移動しやすいまちの形成に向け、引き続き都市計画道路の整備を推進するとともに、橋梁の長寿命化等の取組を進めます。また、国道42号和歌浦地区については、国からの受託により道路拡幅・歩道整備を促進してまいります。

昨年、大きな自然災害が相次ぎ、本市に甚大な被害をもたらしました。集中豪雨による浸水被害を最小限に食い止めるため、永山川、平尾川の整備を推進するとともに、整備を進めてきた前代川については、平成31年度の完了を目指します。また、浸水被害区域の早期解消に向け、ポンプ場などの雨水排水施設の整備を推進するとともに、国土強靱化緊急対策により、新六箇井堰の完全撤去など紀の川の治水対策と内水対策に取り組むよう国に働きかけてまいります。さらに、災害対応力を高めるため、引き続き可聴範囲の拡大のための防災行政無線の再整備を進めるとともに、災害医療体制を強化し

ます。

大規模化、多様化する自然災害に対し、被害を最小限に抑えるため、地域ぐるみの助け合いのもと、自力避難が困難で特に支援を必要とする方々の安否確認や避難支援に役立つ「災害時要援護者登録名簿」の活用などにより、先導的な取組を行う地区をモデルとして選定し、災害種別や地域の実情に応じた避難支援体制づくりを促進します。発災時の各部局の役割や対応事項を再確認するため、災害対応体制の整備を行うほか、防災対策に係るマニュアル等の策定や見直しを行います。

また、巨大地震等による住宅等の災害対策を強化します。未耐震住宅の全戸・戸別訪問を通じた普及啓発等を継続し、耐震改修等を促進するとともに、公共施設を含め、道路に面した危険なブロック塀の改修を推進します。

空き家による市民の生命、財産に対する危険性を取り除き、住環境の改善及び地域の活性化を図ります。特定空家等の所有者への指導・勧告等を強化し、危険な空き家の除却を促します。また、空き家の発生の未然防止に向けた啓発に努め、利活用が可能な空き家については、引き続き空き家バンクへの登録促進等による流通の活性

化を図るとともに、地域防災活動や子育て支援活動等の多世代交流の場としての活用も支援します。

#### ◆ 働ける・働きたいまち

3つ目は「働ける・働きたいまち」です。

2025年の大阪・関西万博の開催が決まり、本市を世界各国にアピールできるビッグチャンスと捉え、今後イノベーションが本市で創出されるよう、起業の支援や先端技術導入に向けた取組を進めます。

本市を訪れる国内外からの観光客が増加する中、本市での滞在が良き思い出となり、再び訪れていただけるよう、おもてなしの充実と受け入れ態勢の強化に取り組めます。

#### (地域産業の活性化)

地域産業の活性化に向けては、企業立地促進奨励金制度による先端設備導入や増設等への支援を図るとともに、IT・IoT化に関するセミナーや相談会を開催するなど企業の生産性向上を後押しします。

産業を支える「人」の確保に向けては、今後開学される大学を含めた教育機関との連携等により、若者や学生の市内就職を促進します。また、今後も増加が見込まれる外国人労働者に係る就労、生活、語学などの対策に取り組むとともに、東京圏から和歌山市内に移住して起業や就職をする方を支援することで、国外、県外からの労働力を本市に呼び込み、人材不足の解消につなげ、さらには、交流の輪を広げることにより、新しい活力につなげていきたいと考えています。

本市と提携を結ぶ姉妹都市・友好都市や、台湾、イタリアのアマルフィ市などとの交流をこれからも進めるとともに、交流を通じた本市の観光PRや農産物等の販路開拓を実施し、国際戦略を推進します。

農林水産業においては、和歌浦漁港内での地元水産物販売促進に加え、雑賀崎漁港への集客と活性化を図るため、漁協の海上釣り堀整備への支援を行うほか、船上販売等への来訪者のためのトイレを整備します。また、市民の方々が農業に接する機会を増やすため、市民農園の開設を支援します。

さらに、農・水産物の魅力発信拠点の整備と活用を進めます。四

季の郷公園においては、和歌山南スマートインターチェンジ開通に伴うアクセス向上により、更なる集客が見込まれることから、農産物直売所やレストラン、バーベキュースペースを配置した地元農産物の味覚を楽しめる道の駅のオープンを目指します。中央卸売市場においては、再整備を着実に進め、産地との連携強化や多様化する消費者のニーズへの的確な対応を図るとともに、地域の特産品の販売等を行う道の駅についても整備を進めます。また、余剰地については、市場や道の駅と連携しながら賑わいに寄与する活用や運用を具体化します。

#### **(さらなる観光誘客の促進)**

観光客をこれまで同様、着実に増加していけるよう、心のこもったおもてなしと快適な環境を整備することで、受入れ態勢の充実や魅力の向上を図ります。

今年8月16日には、和歌山港で初入港となる10万トンを超えるクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が寄港します。和歌山城など市内観光への誘導により消費拡大へつなげるとともに、寄港時等のおもてなしによりリピーターの増加につなげてまいります。

また、「ねんりんピック紀の国わかやま2019」においても、全国から訪れる選手、監督や関係者をお迎えし、たくさんの来場者に「和歌山ファン」になっていただけるよう、歓迎イベントやミニ観光ツアーの企画を進めてまいります。また、本市の玄関口であるJR和歌山駅と南海和歌山市駅のタクシー乗り場を優良タクシーに限定する取組を進めることで、おもてなしの向上を図ります。

一方、国内外の観光客の方々に快適で充実した時間を過ごしていただくための取組として、キャッシュレス決済の導入を促進することで、電子決済が主流である外国人観光客の利便性向上のみならず、業務効率化や顧客ニーズの分析強化につなげます。また、観光地それぞれの特色を生かした観光商品を造成するとともに、食・体験・観光・交通を組み合わせた市内周遊クーポン券の開発への支援を行います。

本市には「和歌の浦」「加太」という世界に誇れる観光地があり、それぞれ個性的で魅力ある自然・歴史・文化・食等を有しており、これらを更に磨き上げ、国内外に向けて発信できるよう施策を展開してまいります。

「絶景の宝庫 和歌の浦」として日本遺産に認定された和歌の浦・

紀三井寺の魅力を引き続き国内外に発信するとともに、和歌の浦を海から体感してもらうための観光遊覧船の導入を支援します。観光客を受け入れる拠点として、不老橋付近の古民家を活用したガイド施設の整備を進めます。また、公園の整備や道路の美装化、無電柱化を推進するとともに、文化財の活用促進を図ることで、歴史あるまちなみ景観を磨き上げます。

加太地域では、東京大学加太分室や青少年国際交流センターを拠点として、大学や地域の方々と連携したまちづくり、子供たちを交えた文化・芸術活動など新たな交流が生まれています。このような機会を捉え、南海電鉄と連携したりノベーションまちづくりを進めるとともに、地域おこし協力隊による空き家を活用した起業を促進します。また、近年入島者数が増加傾向にある友ヶ島では、砲台跡などの歴史遺産や豊かな自然を最大限生かすことで、加太の魅力を更に向上させてまいります。

#### ◆ 魅力あふれるまち

4つ目は「魅力あふれるまち」です。

人口減少に歯止めをかけるためには、子育て施策の推進に加え、

転出の抑制や移住定住など転入施策が重要です。2021年に開催される国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭に向けて完成する様々な拠点を生かし、確実にまちの活性化につなげるとともに、歴史・文化・スポーツなど各地域が持つ魅力の向上や住民主体のまちづくりを推進することで、住みたい、住み続けたいと思われる魅力あふれるまちを実現してまいります。

#### (生まれ変わるまちなか)

今年4月、まちなかで2校目となる和歌山信愛大学教育学部が開学します。また、文部科学省に認可申請している専門職大学が認可されると、2021年には5つの大学がまちなかに開学しており、その後、約2,000人の学生がまちなかで学ぶこととなります。フォルテワジマ内にある「和歌山市NPO・ボランティアサロン」に、学生たちと地域住民、商店街、ボランティアといった様々な主体との交流、連携機能を持たせ、「和歌山市地域フロンティアセンター」として再始動させることで、まちの活性化や地域の課題解決はもとより、学生たちの成長や本市への愛着醸成につなげてまいります。

南海和歌山市駅では、オフィス棟、駐車場棟に続いて、公益施設棟が完成し、2020年春には、ホテル棟、商業棟がすべて完成します。公益施設棟の新市民図書館は、図書館機能に加え、これらの施設との相乗効果を発揮し、多世代間の交流拠点、観光のスタート地点など、様々な機能をもつ賑わいの拠点となります。さらに、駅前広場を多様な活動等で賑わいを創る交流空間として整備することで、県都の玄関口に相応しい拠点に生まれ変わります。

本体工事に着手する市民会館（仮称）市民文化交流センターは、「文化」「交流」「にぎわい発信」という3つの拠点機能を発揮し、基本理念である「芸術文化・人に出会う喜びや感動がまちの元気につながる『にぎわいの文化交流拠点』」を実現できるよう準備を進めてまいります。

また、2020年の完成に向け、引き続き友田町四丁目地区、北汀丁地区における再開発事業への支援を行うとともに、新たな拠点整備に向けた検討も進めます。

和歌山城では、扇の芝の整備や大奥、能舞台の復元的整備を着実に進め、人を惹きつける魅力ある和歌山城を実現していきます。今年、徳川頼宣公が紀州藩初代藩主として入国して400年の節目

の年です。和歌山城を中心とした「和歌山公園」の名称を「和歌山城公園」に変更するとともに、紀州徳川家19代目に当たる徳川宜子氏を招いたシンポジウムを開催するなど、本市の歴史・文化を市内外に発信します。

また、移転予定の紀陽銀行和歌山中央支店の跡地を活用した（仮称）和歌山城前広場の整備に着手するとともに、北側の京橋親水公園までの動線となる市道中橋線の無電柱化や歩道整備を進めることで、和歌山城との一体感を生み出し、城下町としての魅力を築いてまいります。さらに、水辺や公園などの公共空間の利活用やリノベーションの推進といった魅力向上に向けた取組に加え、まちなか外縁部にある市営駐車場をフリンジ駐車場として位置付けて機能を強化することで、歩いて、食べて、楽しめる魅力的な歩行者中心のまちなかを目指します。昨年8月に再開した大新地下駐車場に続き、現在休止している本町地下駐車場についても、パークPFI制度を活用して整備する本町公園と一体的に民間事業者が運営することで、2020年4月の再開に向けて進めてまいります。（仮称）市営北駐車場については2021年の供用を目指し、引き続き整備を進めます。

また、これから生み出されるまちの賑わいが夜間にまで及ぶよう、現在整備中の市駅前広場や新市民会館では夜間景観に配慮するとともに、市堀川沿いのライトアップなどを進めてまいります。

### (地域が持つ魅力の向上)

各地域には、自然・歴史・文化などの魅力があり、それを生かして、各地域の方々により、まちづくり、美化活動、伝統行事、イベントなど様々な活動が行われています。

現在、地域での活動拠点となる施設の整備を進めており、宮前地区では、平成31年度に、児童福祉や地域福祉の役割を持った（仮称）杭の瀬児童・地区福祉センターがオープンします。楠見地区では、文化会館・児童館に加えて雑賀衆などの歴史資料室を兼ね備えた複合施設の本体工事に、名草地区では、南コミュニティセンターでの図書室設置の設計にそれぞれ着手します。今後とも、まちづくり活動への支援や地域における活動拠点の整備を進めることで、本市を元気にする様々な活動を促進します。

ねんりんピックの会場にもなっているつつじが丘テニスコートでは、駐車場の拡充に加え、運動もできる総合公園として整備を進め

ることで、幅広い世代の交流・健康増進の拠点として、魅力を高めていきます。自転車の活用については、3月23日に本市で開催される「第1回全国シクロサミット」を契機にした機運の醸成やサイクルルートの広域連携を進めるとともに、自転車活用推進計画を策定します。

また、熊野参詣道の世界遺産登録15周年を契機とした本市熊野古道の環境整備を進めるとともに、友ヶ島を起点とした葛城修験道など本市が持つ歴史的・文化的資産の活用を進めます。

さらに、国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭に向けて組織体制の強化を進め、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、プレイベントを通じて本市の文化・芸術を国内外に積極的にアピールし、2021年には、地域の様々な舞台で、文化・芸術を介した交流を生み出せるよう取組を進めてまいります。

以上が、平成31年度の主要事業です。

この予算の規模は、

一般会計	1, 566億8, 303万円
特別会計	977億 277万円

公営企業会計 4 1 1 億 5, 0 3 6 万 8 千円

総計 2, 9 5 5 億 3, 6 1 6 万 8 千円

で、前年度に対する増減率は、一般会計で3.8%の増、特別会計で0.2%の減、公営企業会計は1.2%の減となり、全体では1.7%の増となっています。

一般会計の歳出は、青少年国際交流センターの完成などで減となったものの、公立認定こども園、若竹学級、新市民図書館などの子育て・教育・福祉関連施設や新市民会館の整備費、公共施設や民間住宅等の危険なブロック塀の除却などの防災・減災対策費、就学援助の拡充、障害者総合支援などの社会保障費の増により、総額として増となりました。

一方、一般会計の歳入は、市税において法人市民税で企業収益の増加などによる伸びを見込むほか、基準財政需要額の増により、臨時財政対策債を合わせた実質的な地方交付税も増となり、歳入一般財源の総額としては増加を見込んでいます。

今後とも、事務事業の見直しや事務の効率化を進めるとともに、行財政改革を継続的に推進することによって、効率的で効果的な市政運営を行い、市民にとって不可欠な行政サービスを安定的に提供

してまいります。

この新年度予算を、「未来の発展につなげる予算」と位置付け、盛り込んだ事業を着実に実行することによって、「きらり 輝く 元気和歌山市」の実現を図っていきたいと考えていますので、市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、議員の皆様におかれましては、慎重ご審議の上、何卒ご賛同賜りますようお願い申し上げます。